

【研究課題名】：放射線性口腔粘膜炎に対するジクロフェナクナトリウム含嗽の効果に関する評価

【背景と目的】

頭頸部がんの患者さんにおける放射線照射に伴う有害事象は、味覚障害、口腔内乾燥、口腔粘膜炎など、患者さんの QOL に大きく影響を与えます。その中でも、口腔粘膜炎は疼痛を伴い、食事摂取等を大きく左右することから、疼痛緩和を目的として種々の口腔粘膜炎治療薬が使用されています。愛媛大学医学部附属病院では、市販されている口腔粘膜炎治療薬以外に、疼痛緩和目的として、非ステロイド性消炎鎮痛剤（NSAIDs）であるジクロフェナクナトリウム錠（ボルタレン錠®25mg）、炭酸水素ナトリウム、トラネキサム酸（トランサミン®散）を蒸留水に溶解したものを、含嗽として使用しています。しかしながら、これまでにジクロフェナク含嗽液の効果に関して詳細に検討した報告はありません。そこで、愛媛大学医学部附属病院において放射線療法を行った患者さんのうちジクロフェナク含嗽液を使用した患者さんを対象に、ジクロフェナク含嗽の効果の評価します。

【研究意義】

口腔粘膜炎での疼痛に対して、効果のある治療法となり得るかの評価ができる。

【調査内容】

2011年1月から2014年3月の間に当院へ入院した患者の中から、放射線療法を行った頭頸部がんの患者さんのうち、ジクロフェナク含嗽を使用した患者さん。

調査項目：年齢、性別、併用薬剤、疼痛の有無、食事摂取量、口腔内乾燥、口腔粘膜炎の Grade 評価、胃管、放射線量等の有無を電子カルテから調査します。

【実施期間】

2014年8月～2015年7月の1カ年を予定しています。

【患者さんの個人情報の管理について】

厚生労働省「疫学研究に関する倫理指針」に基づいて患者さんのプライバシーを守るよう努めています。結果の発表や出版に際しては個人が特定できるような情報は掲載しませんので、患者さんの不利益となることはありません。

【研究実施体制】

愛媛大学医学部附属病院 薬剤部

教授 荒木 博陽

講師 田中 亮裕

副部長 田中 守

薬剤師 渡邊 真一

薬剤師 檜垣 宏美

研究協力医師

歯科口腔外科 日野 聡史

【調査結果】

ジクロフェナク含嗽を使用すると、口腔粘膜炎での疼痛に対して有効である可能性が示唆されました。